



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

八王子西片倉雲母保育園



テーマ

【田植え・稲の生育と収穫までを体験】

設定した理由・背景

お米不足や高値をうけて、当たり前前に口にはしているお米の大切さを考えてみる。

用意した環境設定

・大型バットを用意して、水田を作り田植えを行い生育を観察し、収穫出来るようにした。

活動のあゆみ

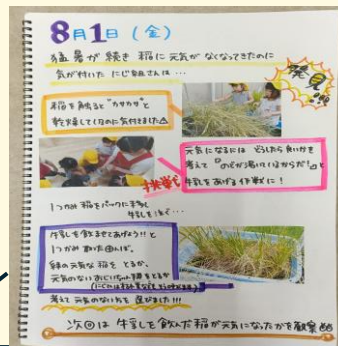
- ・5月21日田植えを行う
- ・5月22日～月曜日(5歳児)水曜日(4歳児)金曜日(3歳児)が稲の観察開始
- ・各クラス観察の様子をスケッチブックに記録し、帰りの保護者対応で報告
- ・7月17日図書館に行って稲について調べてみる (5歳児)
- ・8月1日：稲が場所によって枯れているものを発見し、どうすれば復活するかを考えながら場所を変えたりして観察する
- ・9月3日：バッタが稲の葉を食べていることに気が付き、ゴミ袋で覆って囲いを作り、ハッカ水を撒いて様子を見る
- ・9月10日：バッタは少なくなってきたがまだ少し見られるので観察の日に見つけたら捕まえて対処する
- ・10月6日：保護者参加行事の秋祭りにて保護者と共に収穫をして束にして干す
- ・11月：一粒ずつとりその後精米する

✧探究活動の実績✧

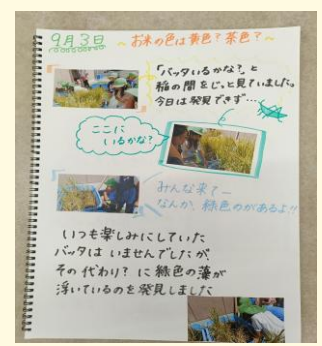
- ①いつもみんなが食べているお米がどういう風に見えるのかという問いかけから、実際に田植えを行い一週間のうち一日置きに観察しようとして各クラス探究を開始した。
- ②子どもたちの中で、稲を育てるためには水と太陽が必要という答えが出たので日当たりの良い場所に置いて観察をする。
- ③猛暑が続き、稲が枯れてしまう水田が出てきた。3歳児クラスは稲に元気がなくなっている姿をみて自分たちが飲むと元気になる牛乳をあげてみようとして枯れている稲を少しお部屋に持って行く。牛乳では元気がならなかったので1人じゃ寂しいかもと、元の場所に戻してあげることにして観察を続けた。4、5歳児クラスでは、稲を観察しているとバッタを発見する。何故バッタがいたのかを調べてみるとバッタが葉っぱを食べてしまうことを知り、ハッカ水とビニールで稲を覆ってバッタから守る作戦にする。バッタを見つけるとすぐに捕まえて逃がして稲を守っていた。葉っぱを食べている虫がバッタ以外にいないか観察を続けた。
- ④葉っぱでも命があることや育てるためには人間と同じものでは育たないためどうすれば元気に育つのかを子ども達が興味を持って考え発言する姿が見られた。また、観察を続けることによって1から育てることの難しさや太陽の位置によって育ちが変わることなども子ども達自身が気付いて学びになっていた。少しではあるがお米を収穫することができ、子どもたちも誇らしげな様子であったが、植えたものよりも収穫できた数が少なかったのでお米を育てる難しさを知り、普段ご飯を食べられている有難さの気付きも得られた。



5歳児が図書館で稲について調べている様子



3歳児が枯れている稲をどう復活させるか考えている様子



4歳児がバッタ探しに取り組む様子

まとめ

稲を植えて成長していく様子を観察する中で、夏の暑さが原因で起こる水不足や虫の発生などのトラブルに対しても子どもたちからは「なぜ？」が生まれ、知ろうとする姿が継続してみられた。収穫量は少なかったが、収穫されて、お米が食べられる状態になるまでを体験できたのはとても良い経験になったと思う。来年も継続して行い、より沢山のお米を収穫できるように工夫した取り組みにもしていきたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

八王子西片倉雲母保育園



テーマ【花を栽培して花について学ぶ】

設定した理由・背景

花に興味がある子どもが多く、近くに大型ホームセンターがあることでガーデニングコーナーによく立ち寄るため、栽培して花を育てながら花について学んでみようということになった。

用意した環境設定

プランターを用意、土を入れて、自分の好きな花を選び購入して観察を始めた。

活動のあゆみ

- ・5月13日ホームセンターに花を購入しに行く（3歳児）
- ・5月16日苗植えを行い観察開始（3歳児）
- ・花を育てるためには何が必要かを考える
- ・6月4日ホームセンターに花を購入しに行く（4、5歳児）
- ・6月5日苗植えを行い観察開始（4、5歳児）
- ・各クラス水やりを定期的に行う
- ・保護者も見える玄関前に花を置き、帰りの保護者対応で花の栽培の様子を伝える。
- ・花が枯れてきてしまったので何がいけなかったのか、今後どうするかを考え、その反省を活かし新しく球根を植えて育てる活動を継続中。

※探究活動の実績※

- ①花に興味を持っている子どもたちに花がどのように育ち花を咲かせるのかという問いかけから自分で花を選んで購入し、育てながら探究を開始した。
- ②図鑑を見て花を育てるためには水と太陽が必要だという答えにたどり着き、どここの場所に置けば太陽が当たるのか、水はいつあげるのかをクラスで話し合い、置き場所や水をあげるタイミングを決めて観察を続けた。
- ③観察を続けていくとお花が枯れてしまい、なぜ枯れてしまったのかを考えた。猛暑だったことや水やりを忘れる日があったこと、陽が当たりすぎていたのでは？と様々な考察が意見として子どもたちから出てきたので枯れてしまっているけどちゃんと忘れずに毎日水をあげて置く場所も変えてもう一回やってみようということになり更に二週間観察を続け、記録をメモにまとめた。
- ④二週間観察を続けたが、花が復活することはなかった。水やりを習慣化させるには保育の中で水やりの時間を設ける必要性や、花を育てているという自覚を日常的に持てるように促す必要があったと保育者の反省もあった。次回育てる機会があれば水やりは当番制にして、誰が当番なのかを子どもたちで判断できるような視覚的に分かる工夫をする。子どもたちからは、太陽が当たりすぎないように時間によって変えたりするなど今回の反省点を踏まえて次は綺麗に花を咲かせられるように育てたいという気持ちが芽生えていた。



ホームセンターにて花を選んでいる様子



苗植えをするために土に穴をあけている様子



5歳児が花に水やりをする様子

まとめ

植物を種、球根、苗から育てることを経験してその違いに気付くことができた。天気によって植物の様子が変化すること、どのようにすれば元気になるか、植物を育てるのに何が必要かを知ることが出来ていた。花を育てる楽しさを知り、興味や関心を広げていけるように、今後も花に関する活動や触れ合う機会をつくっていききたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

八王子西片倉雲母保育園



テーマ【英語】

設定した理由・背景

異文化交流をする機会が少なく、他国を知り、自国の良さを知り、世界に興味関心を持つことをねらいとし、第二言語の習得や言葉の種類について関心を深められる機会を作ろうと考えたため。

用意した環境設定

・ノートPC・プロジェクター・スクリーン

活動のあゆみ

- ・5月14日～4.5歳児が毎週水曜日にZOOMで英語レッスン開始
- ・7月2日～3歳児が毎週水曜日にZOOMで英語レッスン開始
- ・保護者向けに授業の内容が記されたポスターを玄関に掲示
- ・9月26日：異文化探求プログラム「のりもの」の授業を受ける
- ・10月23日：異文化探求プログラム「ダンス」の授業を受ける
- ・1月23日：異文化探求プログラム「いえ」の授業を受ける
- ・2月：毎週水曜日に「からだ」について学ぶ。
- ・3月：毎週水曜日に「いきもの」について学ぶ。

※探究活動の実績※

- ①世界にどのような乗り物、ダンス、家があるのかという問いかけから、探究を開始した。
- ②異国のことを知らない子ども達に授業の中で、世界の乗り物やダンス、家などを映像や写真で見ると自国との違いに驚いたり、〇〇みたいと自国の物と似ているものを挙げたりしていた。写真や映像を見ながら保育者や講師の方と更に探究を深めた。
- ③似ている乗り物を比べてみたり、異国のダンスを踊って体験してみたり、ノルウェーの犬ぞりを見せてもらい、見たこともない光景に驚き「重くないのかな？」「犬が引っ張ってるの？すごい」と話したりした。他にも色が統一された家がたくさん並んでいる様子や、近隣ではなかなか見れない高い建物、見慣れないイグルーなど、一つ一つの異文化に興味が高まっていった。
- ④玄関掲示をしてある、当日の授業内容が分かるポスターを保護者と一緒に見ながら「今日はこれをやったんだ」と得意気に説明する様子も見られた。日常生活の中でも「ハロー」と覚えた言葉を話すなど、英語や異文化に興味を示す姿が見られたため、更に図書館に行き他国の伝統文化や服装などを調べた。自国についても学ぼうとする姿もみられ、異文化について考える体験になった。



ジェスチャーで講師に伝えている様子



4歳児が英語の歌を歌っている様子



5歳児がリスニングクイズに正解して喜んでいる様子

まとめ

外国人講師の方と行ったZOOMでの対話や英語の音楽や遊びを通し、他国や異文化への興味が深まっていった。回を重ねるごとに英会話に興味を持ち、日常にある英語に気付くようになり、使用する場面も見られた。図書館で海外の本を読み、自国との違いや世界を知る機会になった。新しい言葉や文化に触れ、想像したり、実際の様子を見たり調べたりすることが子どもの発見や探究に繋がっていった。異文化理解を通して、自国文化への興味・関心を広げ、理解を深めることにも繋がった。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

八王子西片倉雲母保育園



テーマ【体操】

設定した理由・背景

昨年度からの継続

運動の基礎となる体幹を重点的に鍛えて、体の使い方や姿勢、集中力、聞く力などを育てながら、体を動かす楽しさを知る機会を作るため。

活動のあゆみ

- ・5月20日：一回目の体操教室に参加
→止まる、動く(3歳児)縄跳び(4歳児)リレーの筋肉の使い方(5歳児)
- ・8月19日：二回目の体操教室に参加
→四つん這い(3歳児)縄跳び(4歳児)バランス(5歳児)
- ・9月2日：三回目の体操教室に参加
→縄跳び(3歳児)猛獣狩り(4歳児)
- ・11月4日：四回目の体操教室に参加
→なりきり遊び(3歳児)鉄棒(4.5歳)
- ・1月27日：五回目の体操教室に参加
→バランス(3歳児)バランスとボール投げ(4歳児)大縄八の字(5歳児)
- ・3月17日：六回目の体操教室に参加

※探究活動の実績※

①速く走れるようになったり、鉄棒や縄跳びが上手になったり、転びにくくなるためにはどうすればいいかという問いかけから探究を開始した。

②子どもたちの考えは、速く走れるようになるには腕をたくさん振ることや練習をたくさんするという内容であったが、体操の講師の先生から“体幹”を鍛えることが全ての運動に繋がっているということを教わり、体幹を鍛えるための動きを講師や友だちと楽しく体を動かしながら教わった。

③3歳児は講師の話を中心して聞き取り動くことやバランスを中心に行った。初めての体操の活動や外部の講師から教わることにドキドキしながらも回を重ねるごとに集中力が身についていき、講師の言葉で止まったり、動いたりすること楽しんでいた。四つん這いの動きも最初はすぐに「疲れた」と休む姿も見られていたが持続力も上がっていった。4歳児は縄跳びや鉄棒を使い、最初は縄跳びも「できない」と諦める子どもの姿も見られたが、普段の保育の活動の中でも取り入れていくことで跳べる子どもが増えていったり、鉄棒も出来る技が増えていった。5歳児はバランスや鉄棒、縄跳びなどを行った。鉄棒は逆上がりを教わり、園庭で遊ぶ時間に自ら練習をする子どもが増えていき、出来るようになる子どももいた。縄跳びもみんなの午睡の時間に大縄を練習し、縄跳びグランプリを行い何回跳べたかを壁に記録していくことで子どもたちの意欲も高まり、持久力も上がり何百回も連続で跳ぶ子どもも増えた。4.5歳児は姉妹園同士でリレー大会を行っているが、結果にも繋がっており、二回とも1位や2位などの上位を獲得するようになった。

④体操教室の講師から学ぶことにより、子ども達だけでなく、保育者も教え方やポイントを学び、その時間だけでなく、普段の保育に取り入れていくことで子どもたちの意欲を育て、子ども達自身がやりたいと自主的に練習する姿が見られており、体だけでなく心の成長にも繋がっていると感じた。



縄跳びの蛇を跳び超える様子



友だち同士協力してバランスをとる様子



鉄棒の逆上がりをする様子

まとめ

体操教室を通し、体力面だけでなく精神面でも成長が見られていた。講師の話をよく聞いてから活動するといった集中力や、もっと上手になりたいという諦めずやり遂げる力がついた。今回教わったことを普段の保育での継続して取り入れていきたい。



とうきょう すくわくプログラム 2025年度活動報告書



テーマ

【生息する場所によって植物にどのような違いがあるのかを学ぶ】

設定した理由・背景

アメリカキャンプ村にある植物の観察や散策路の探索活動を通し植物について興味を持ち深める。

用意した環境設定

観察体験ミッションシート

活動のあゆみ

- ・7月10日：戸外保育時間に農道にある植物とキャンプ村にある植物とどのような違いがあるのかを知るために散策を行う
- ・7月10日：近くにある植物とキャンプ村の植物と比較出来るように園に持ち帰る。
- ・7月11日：持ち帰った植物で押し花作成を行う
- ・7月14日～7月18日：押し花作品を玄関に展示（保護者への案内）
- ・8月4日お泊り保育：白丸からの散策路にて植物の観察をする
- ・8月4日お泊り保育：アメリカキャンプ村で植物の観察と収集し自園に持ち帰る。
- ・2月17日：お泊り保育で収集した植物で作品作り
- ・2月24日～2月27日：作品展示（保護者への案内）

✧探究活動の実績✧

- ①いつも行く近くの農道にある植物とアメリカキャンプ村にある植物とではどのような違いがあるのかという問いかけから、探究を開始する。
- ②実際に農道に足を運び植物を収穫した。キャンプ村に行ったときに植物を取ってきてこれと比較してどのような違いがあるのかを見られるように押し花にして保管する。小さい葉っぱが多いけどキャンプ村には大きい植物とかいろんな色の植物もあるのかなと保育者の問いかけに子ども達が想像を膨らませ期待を胸にお泊り保育に向かった。
- ③お泊り保育にてキャンプ村に行った際の探索路には不思議な形の葉っぱや葉っぱの大きさも様々でとても大きな葉っぱを見つけて「トトロの傘みたいだね」と話す姿が見られたり、物知りなカメラマンに「あの葉っぱはカエルが雨宿りするための葉っぱ」と教えてもらい「えー」と驚く姿も見られ、普段見られないものに興味を持ち散策をしていた。大きな葉っぱを発見したものの持ち帰るのが大変で手に持てるサイズのものを選んでいった。保育園に持ち帰り農道の植物とキャンプ村の植物を観察しようとする日になりがちが経ったから採ったときと色の違いに気付く「なんでだろう？」とさらに関心を深めて調べ、生息する場所によって植物の大きさの違いや色の違いなどに気付いた。
- ④お泊り保育という大自然の中での非日常な体験を通し、いつもは何気なく見ている植物たちもいろんな模様・形・大きさがあるということに気が付き自ら調べようとしていたり、植物に対しての興味関心が深まった。



押し花の完成品（展示）



散策路を散策している様子



なんの葉っぱか考察している様子

まとめ

お泊り保育の散策路にある植物は、園の周りに生えている植物とは違っており、その違いに気が付いたり、アメリカキャンプ村にある木々や石に興味を持って持ち帰ったりしていた。植物や川の生き物にも関心を持って積極的に関わる事が出来ていた。園に戻ってからも植物について本で調べたり積極的に植物に手を伸ばすような姿が見られるようになった。今後は、行き慣れた場所の自然だけでなく、様々な場所や環境の違いにも気が付けるようにしていきたい。